

山の百名花

読者会 半田 佳子

【91】カヒリ・ジンジャー

昨年 8 月末にハワイ島にハイキングに行ってきました。「ハワイなのに、山ですか？」とよく聞かれますが、ハワイ島にはワイピオ溪谷や火山国立公園をはじめとして、幾つものトレイルがあります。その一つ、キラウエア・イキ・クレイターを歩いてきました。

「イキ」とは、ハワイ語で「小さい」という意味で、世界遺産で有名なキラウエア火山のすぐ隣りにあります。小さいと言っても、周囲は約 6 km、標高差は 120 m で、2〜3 時間のハイキングコースです。非常に変化に富んだトレイルで、ジャングルの中を歩いたり、火口の溶岩台地を歩いたりします。

トレイルの脇には、この季節、ジンジャーの花が満開です。日本人には余り馴染みのない花かもしれませんが、ホワイト、ピンク、ブルー、レッドなど、色も種類も豊富です。なかでも、黄色のカヒリ・ジンジャーはひととき豪華で、ハイカーの目を惹

きます。「カヒリ」とはハワイ語で「ブラシ」のことで、名前の通り、ブラシのような形をしています。

ジンジャーの花は、ナチュラル・シヤンプーの原料になるそうです。宿泊先のホテルに「ジンジャー」という名前の女性従業員がいました。私たちが「ジンジャーの花、綺麗ですね」と言うと、彼女は「私の名前はシヤンプーから付いたんですよ」と笑っていました。



【92】ゴゼンタチバナ

07 年の羅臼岳、08 年の斜里岳に続き、

09 年は雌阿寒岳に挑戦しました。登山口は雌阿寒温泉のすぐ裏で、車を下りると、硫黄の臭いがしました。天気さえ良ければ山頂からは阿寒湖や雄阿寒岳も見えるのですが、曇りがちな一日でした。それでも、一瞬ですが雲が切れ、眼下には青く美しいオ

ンネトー（湖）を見ることができました。雌阿寒岳は活火山ですから、八合目を過ぎた頃から、「ゴオー」という激しい音が聞こえてきます。火口を覗き込んでみると、あちらこちらから噴煙が上がっているのが分かります。

花の季節ではなかったので、あまり期待はしていませんでしたが、登山道の脇には「ヨツバシオガマ」や「シモツケソウ」が残っており、「マツムシソウ」などの秋の花や、「メアカンフスマ」「メアカンキンバイ」などの固有種も咲いていました。赤い可愛らしい実を付けた「ゴゼンタチバナ」もありました。同じ「ゴゼンタチバナ」でも、花の咲くのは葉が 6 枚のものだけかどうか。白い花弁も、花ではなく、本当は苞だそうです。

「ナギナタダケ」や「タマゴダケ」など珍しい、しかも食用のキノコも沢山あり、特に「タマゴダケ」などは、赤いトマトのようなキノコで、花にも負けない愛らしさです。「山の百名花」も、そろそろ連載が終わります。是非、二百名花、三百名花と続けて欲しいと思います。